



## Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二バレエ・コレクション

コクトー・オン・ステージ

～“社交界の軽薄王子”から

“アーティスト”へ～

# vol.9

2007/11/27 (Tue.)～2008/1/27 (Sun.)

ジャン・コクトー / Cocteau, Jean (1889 - 1963)

『マルチ・タレント』という言葉が世間で成立する以前に、その多彩な才能を開花させたのがジャン・コクトーだった。

10代で社交界の詩人として貴婦人たちのいわば<アイドル>として愛され、バレエ・リュスに出会い、ニジンスキーを追いかけ、そして、ディアギレフに言われた「僕を驚かせてごらん、ジャン」という言葉に触発されてバレエ・リュスに参加した。台本を書いた第1作目『青い神』はすでにエキゾチックな舞台をたくさん観ていたパリの観客には受けず、失敗に終わったが、それを挽回すべく挑んだ第2作『バラード』で大成功を収めた。

彼自身バレエ・リュスに参加したことで「社交界の軽薄王子」から“アーティスト”になった」と語っている。コクトーは詩人、シネアスト（映画監督）としての方がよく知られているが、その背景としてある最初に関わった舞台芸術<バレエ>の存在は忘れることができないだろう。

〈コクトーが手がけたバレエ（台本）〉

バレエ・リュス作品

1912年『青い神』

（音楽：レイナルド・アーン／美術：レオン・バクスト／振付：ミハエル・フォーキン）

1917年『バラード』

（音楽：エリック・サティ／美術：パヴロ・ピカソ／振付：レオニード・マシーン）

1924年『青列車』

（音楽：ダリウス・ミヨー／前幕（\*序曲時に使用）デザイン：パヴロ・ピカソ／衣装：ココ・シャネル／装置：アンリ・ローランス／振付：プロニスラワ・ニジンスカ）

バレエ・リュス以外の作品

1921年『エッフェル塔の花嫁花婿』（バレエ・スエドワ作品）

1946年『若者とその死』（バレエ・デ・シャンゼリゼ作品、ローラン・プティ共同作品）

1948年『愛とその死』（バレエ・デ・シャンゼリゼ作品、ジャン・バビレのために製作）

1950年『フェードル』（パリ・オペラ座バレエ団作品、セルジュ・リファールのために製作）

薄井憲二バレエ・コレクション

コクトー・オン・ステージ

～“社交界の軽薄王子”から

“アーティスト”へ～

JEAN COCTEAU on Stage

# vol.9

2007/11/27 (Tue.)～2008/1/27 (Sun.)

出展リスト（作品・資料名／分類／年代／ほか）

◆ 限定出版された『オルフェ』台本（100部限定販売のNo.14、ピカソとコクトーの署名入り）<写真及び署名は同書より>

（書籍 [AB-25] / オックスフォード大学出版 / 1933年 / ピカソとコクトーの署名入り）  
"Orpheus" (No.14/100), Jean Cocteau, Oxford University Press England 1933  
(Signed by P.Picasso and J. Cocteau) (AB-25)

◆ 『ジャン・コクトーのダンス・シアター』

（書籍 [BK289-pi] / フランク W.D. レイス著 / ウミ・リサーチ・プレス / 1986年）  
"The Dance Theatre of Jean Cocteau", Frank W.D.Ries, Umi Research Press, Michigan, 1986(BK289-pi)

◆ 『コメディア・イリュストレ』誌より『青い神』

（雑誌 [MG1207] / 1912年7月1日 / 3巻17号）

"Comoedia Illustré" 1911.7.1.No.3- Vol.17(MG 1207)

## 次回予告

薄井憲二バレエ・コレクション Vol.10

ショコラティエの広告

～ヴァレンタインに向けて

～マルキーズ・ド・セヴィーニエ～

バレエ・リュスのプログラムはバレエの資料としての価値や面白さに留まらず、当時の風俗や流行を見るという楽しさもあります。それがもっとも現れているのは広告かもしれません。今回は中でも裏表紙を豪華に飾ったショコラティエ、マルキーズ・ド・セヴィーニエに焦点を当ててご紹介いたします。

（期間：2008/1/29～2008/3/30 於：2階メインエントランス）

◎ 企画・監修

芳賀直子（はが・なおこ / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター）  
Naoko Haga (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)